

## 地球温暖化が東京に与えるリスクの現状と対策

主催) 日本学術振興会 多国間国際研究協力事業 TRUC プロジェクト

(山室真澄・Steven Kraines)

共催) RISE ジャパンコラボレーション委員会

後援) PwC あらた監査法人

### 【趣旨】

近年、東京において、デング熱の発生や熱中症患者の増加など、温暖化に起因する弊害が増加している。IPCC による予測では、2081～2100 年の世界平均地上気温の 1986～2005 年平均に対する上昇量は、最大では 2.6～4.8℃とされている。日本でも日最高気温が 35℃以上の猛暑日の日数は 1931 年から 2013 年で、明瞭に増加傾向が現れている。一方で東京は地球温暖化問題が顕在化する以前から、ヒートアイランド現象が問題になり、その対策が行われてきた。

本ワークショップでは前半において、東京では温暖化によって既に発生している問題とその対策、発生が予想される問題と考える対策、さらにはそれらの対策が今後予測される最大限の気温上昇に対して有効なのか

を紹介いただく。後半においては、前半で紹介された内容にもとづき、有効な対策を立てる上でどのような情報がどのセクターに共有される必要があるのか、どのセクターでどのような協働が望まれるのか、温暖化対策の基本的な考え方など、今後の対策のヒントを専門や立場を越えて議論する。

今回のワークショップで抽出された論点や対策の効果を上げるために今後必要となる情報、関与が望まれるステークホルダーなどの項目を、

G8 Research Councils Initiative (日本でのスポンサーは日本学術振興会) 国際研究プロジェクト「Transformation and Resilience on Urban Coasts」(TRUC) の研究代表者である Mark Pelling 博士 (英国キングス・カレッジ・ロンドン) に提供する。Pelling 博士らは都市の温暖化リスク軽減対策を resistance, resilience, transformation の 3 つに区分し、ステークホルダーがどのような過程を経ることによりどの区分の対策を選択するかを長年研究している。なお TRUC の詳細は <http://www.bel-truc.org/index.php> で公開されている。



## 【プログラム】

日時：8月19日（水）13:30~16:30

場所：PwC あらた監査法人 23階会議室（住友不動産汐留浜離宮ビル）

進行：寺田良二（R!SE ジャパンコラボレーション委員会／プライウォーターハウス・パース サステナビリティ(株)）

趣旨説明 Steven Kraines（東京都市大学）

### 1. 報告

温暖化対策としてのヒートアイランド対策の成果と課題 大岡龍三（東京大学）

東京の暑熱環境と熱中症搬送者数 登内道彦（財団法人気象業務支援センター）

東京におけるヒートアイランド対策の経過と課題 堀 茂樹（東京都環境局）

本邦における熱中症患者の現状と課題 三宅康史（昭和大学）

温暖化が東京の電力需要に与える影響 井原智彦（東京大学）

屋外作業時間に及ぼす温暖化の影響 上野 純（大成建設株式会社技術センター）

屋外学習時間に及ぼす温暖化の影響 小谷知弘（小田原市立富水小学校）

### 2. コメント・ディスカッション（司会：山室真澄）

コメンテーター：

市橋 新（東京都環境研究所）

野田健太郎（立教大学）

鎗目 雅（東京大学）

オブザーバー：

後藤 文昭（三井住友信託銀行）

### 3. 閉会の辞

宮村 和谷（PwC あらた監査法人 SPA レジリエンス・アドバイザー担当パートナー）

以 上